

其の總額九百五十三萬圓の事業を計畫し既に縣會の議決を
經着々事業に着手して居るから來るべき光輝ある二千六百

年を迎へ轉禍移福の決意を以て我八十萬縣民は張切つて居
る。(昭和、一四、二二、一五)

東北漫歩

(宮城縣の卷)(二)

和泉生

東北に旅して、到る處に温泉の存在することは、心快い
慰安であり、好感が持てる。人口に膾炙されてゐるものは
別としても、其の數は、他府縣の遠く及びところではない。

「羅馬は風呂で亡びたと言ふ諺さへある。

東北の地圖を展げて御覽。山嶽の連なる處、水碧き湖畔、
或は波濤渦巻く海邊の各所に、湯の香漂ふ樂園を發見する
に難くないであらう。旅と温泉、堪らなく魅惑と空想が錯
綜する。然し此の温泉も、夜更し、離家生活、文化生活の一
進歩に伴ふ避妊、墮胎、殺兒等の惡俗と共に、頽敗俗の一
大要素であることを、建部博士が主張してゐる。

羅馬の二千年前の遺跡として「カラカラの浴殿」といふ
のがある。勿論今日は殆ど柱と言ふものが無く、贅澤な
る象眼の敷石が残つて居るに過ぎないが、數千人の男女
の群が朝から晩まで之に集り、風呂氣分でだらしきなき
生活を續け、精神並に身體の兩面にハリといふものを全
く失つてしまひ、隨つて風俗も亦極端に墮落し、羅馬帝
國の根基を腐蝕するに至つた。

「風呂」の一節が即ちそれである。

羅馬は貪に衰へずして、富の爲に衰へた。羅馬の滅亡
は人口減衰の爲であると、近代史家の定論になつたこと

であるが、之が爲には、此の風呂といふものが、頗る力強く働いて居るのである。其の設備には、混浴風呂といふ大きな浴池、寧ろ浴湖があり、その外に、個人的のシヤンプル・セパレー式隔離浴室は、往々安樂往生の自殺室ともなつた。斯くの如く爛れ切つた頹敗的羅馬人は、自殺に於ても安樂に往生することを考へた。それは、上膊邊りの動脈を鋭利なる剃刀で切り、次第々に貧血して往生する方法である。唯だでも、此の貧血自殺は氣持よく眠るやうな氣分のものでさうであるが、殊に、熱からず温からずの風呂に浸つて、これをやるのは、最上の安樂往生だといふことで、所謂羅馬の貴顯紳士は、奴隸をして此の剃刀を行使せしめ、風呂の中で往生することが大流行であつたといふ言傳へさる。

我が國では、幸に斯様な大規模、惡規模の風呂もなく、又風呂其物は、實に立派なる趣旨から發達した我が良風美俗の設備であるが、唯一つ杞憂の種は、我が國が世界にも稀なる溫泉國である點で、萬一是から頹敗俗が進み

進んで停止する所を知らざるやうな場合が來るとすれば、此の溫泉が、カラカラの湯に悪用されぬとも限らぬ。殊に、近頃鐵道省で觀光局杯が出來て、旅の恥は掻き捨ての外國旅人を澤山招き入れやうとするに至つては、我が國人が清淨潔白でも、搔捨外人から飛んでもない風俗上の惡質黴菌を、何時溫泉場へ撒かれぬとも限るまい。既に、外人で繁昌する東京から餘り遠からぬ或溫泉杯では、随分風俗上いかゞはしい遊戯に托した途轍もない事柄が行はれることは、最早相當年數も古いことである。是が所謂霜を履んで堅氷到るである。」

外人との談話を得意がり、或は半可通な觀劇を娛しみ、甚敷に至つては、國辱的な火遊びにうつゝを抜かず女性の輕薄に對しては、愛國者の齋しく悲憤慷慨する所であつて、所謂不良外人驅逐の雄叫びは、蓋し、神國日本の神聖を永遠に確保せんとする傳統的大精神の發露に他ならない。建部博士も亦此の點に思ひを配し、盲目的歐米崇拜の愚を痛撃して、榮光ある大和民族の健全なる發展を強調されたこ

とは、我々の心すべきことであらう。

仙臺市の東方四軒、府縣道仙臺石巻線に沿へば、岩切村大字燕澤に及ぶ。高一米九、徑九十糎の碑は、古來蒙古の碑又は弘安の碑と傳ふるも、其の字體怪奇で殆ど讀むを得ないが、「燕澤碑考」に據れば、弘安の役の際、博多で戦死した元兵の冥靈を弔ふ爲に建立したものとらしく、附近の比丘尼坂の中腹にある比丘尼塚は、平將門の息女、十六歳の時剃髮して尼となり、此の地に庵を結んで父の冥福を祈り行人に甘酒を賣つたと言ふ。甘酒は今も此の地の名物である。

東北方に見ゆる多賀城址は、西の太宰府と並び稱せらるゝ東の鎮守府であつて、奈良朝の神龜元年に大野東人の築城したものである。爾來六百餘年を経たる正平七年に至るまで、東奥の鎮撫及蝦夷の跳梁に備へ、大和民族の東北發展史上主要なる役割を爲したものであり、本丸址の南麓に遺る高二米、濶八十糎の多賀城碑は、築城後十六年、當時の軍旅の便を圖る爲建立せられた里程表で、日本三古碑

の一に例し、今は雨露を防ぐ小堂が設けられてある。

碑面に曰く。

多賀城 去京一千五百里

去蝦夷國界一百廿里

去常陸國界四百十二里

去下野國界二百七十里

去靺鞨國界三千里

此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將

軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所置

也天平寶字六年歲次壬寅參議東海東山

節度使從四位上仁部省郷兼按察使鎮守

將軍藤原惠美朝臣獨修造也

天平寶字六年十二月一日

此の碑は、中世以降約一千年草莽中に理設し、絶えて知る者もなかつたが、元祿年間、水戸光圀卿其の文を伊達網村公に請ふに及んで、網村公は儒臣佐久間洞巖に命じ、之を搜索せしめ、漸く市川橋の橋材中に得たと言ひ、城址の

南の末の松山は、古來名高き歌枕の地で、今は僅に四五株を
残すに過ぎないが、往時は満山松樹で、海が現在よりも
近く、遠方から眺めると、今にも波が越するのではないか
と思はれたと謂ふ。

君をまきて仇し心を我持たば

末の松山波やこえなん (古今集)

契りなきなかたみに袖をしぼりつゝ

末の松山波越さずとは (清原元輔)

うら近く降りくる雪は白波の

末の松山こずかとを見る (人丸)

上古は七曲水門、中古は國府津(香津)或は千家の浦と
稱し、悠久三千年、既に神代の昔に於て開拓されたと傳へ
らるゝ鹽釜町も、世は文明開花の風漲り、維新の大業成り
て新政布かれて以來、さしもの殷賑も堇花一朝の夢と化し
て商況萎靡沈滞し、住民も亦四散して全く荒廢の一漁村と
化し、

鹽釜出る時ア大手ん振りよ

奏社の宮からアリヤ胸勘定

鹽釜街道に白菊植えて

何を聞く聞かたより聞く

などの情緒纏綿たる面影を失つてしまつた。然るに明治十
五年、積年の頽勢を挽回せんがため、港内修築の議臺頭し、
時の縣令松平正直氏に稟請して容るゝところとなり、其の
二月起工して、十八年竣功し、舊來の面目を一新して舟楫
の便加はり、急激に再興の機運を齎した。是が即ち築港の
濫觴であつて、現今の國有鐵道鹽釜驛前及船溜がそれであ
る。此の頃より、相前後して埋立が各地先に行はれ、市街
は海岸へと伸びて漸く活況を呈し、再び發展の曙光ほのぼ
のと影を射し初めた。斯くして、唇齒補車の關係にある仙
臺市の門戸として、或は背後地帯の産業經濟上將亦軍事上
に於ける重要港灣としての天惠の好條件は、自づと本港開
發の端緒を啓き、國幣六百數十萬圓の巨費と、十有八年の日
子を要して第一期修築を了し、更に六拾萬圓の追加工事に

依つて錦上花を添へ、堂々今日の大成を築き、人口二萬五千人を算するに至つた。これを、明治末葉に於ける人口八千人に對比せば、其の盛運の程が僞ばれよう。

天下有山水

各種一方美

衆美歸松州

天下無山水

餘りに人口に膾炙されてゐる松島の景觀は、日本三景の一たるのみならず、今や世界の公園として國際的名聲を馳せ、外國人絶讚の的であり、「奥の細道」に於ける、「松島の月先ず心にかゝりて……」は、俳聖芭蕉の心落つかぬ憧れを如實に物語るであらう。

廣袤二十四方杆、海岸線二十八杆、灣内に星列碁布する大小無數の島々は、悉く形状相貌を異にし、千姿萬態の秀麗は、正に一幅の活畫であり、嗜好雨奇、雪晨月夜の眺めも亦各其の特色がある。山上の展望としては、俗に松島の四大觀と稱し、大高森の壯觀、扇谷の靜觀、富山の麗觀、

多聞山の美觀を擧げることが出来るが、何といつても、島巡りが一番で、嘗て秩父宮殿下が御遊覽あそばされたコースを、秩父宮コースと賞し最も喜ばれてゐる。松島はまた、名勝舊蹟の探勝としても佳く、大同二年坂上田村磨の創建にかゝる五大堂をはじめ、雄島、觀瀾亭、瑞嚴寺、或は西行戻しの松等一日の行樂に相應しい。

松島の觀光経路は、從來仙臺驛より臨海電車宮城電鐵に乘車し、松島驛に下車して松島を觀光の上、船にて灣内の風光を愛でつゝ鹽釜港に達するのであるが、近時に於ける自動車の利用激増は、遂に松鹽道路の新設を餘儀なくせしめた。昭和八年、縣は救済土木事業を機として之が實現を決意し、三年餘の歲月と貳拾貳萬七千圓を要して、延長十一杆の觀夫道路が現出するに至り、角度の變換に依る松島の新しい圖繪が、我々の眼に映する様になつた。徳富蘇峰の命名せる臥龍崎が其の代表的なものである。

松島より海岸線を縫ふこと二十七杆の石巻港は、往時仙臺藩に於ける唯一の貿易港として、千石船の出入頻繁に行

はれ、大江戸の市場を左右した所謂本石米は、此の港より積出されたものであつて、三十五反の帆を捲き上げて行く「仙臺石の巻」は、其の昔、石巻の隆盛を謳歌した船唄である。然るに、北上川の水源林野は荒廢し、河口を埋塞したるため、船舶の出入漸く不便となり、更に東北本線の開通するや、物資の集散に著しき變化を生じ、明治の中頃には、其の勢頗に振はざる状態に陥つたが、石巻市は仙臺市に次ぐ商工業地であり、南漁港として其の取引先の廣汎なるに鑑み、北上川河口に應急修理を施し、國有鐵道石巻線及宮城電鐵線の開通に依つて、漸次舊狀に回復したので、多年の懸案であつた北上川河口改修及石巻港の修築は、孰れも昭和八年功を了へ、裕に一千噸及至一千五百噸級船舶の出入可能となり、石巻市・女川町間の國有鐵道の開通に伴ひ、三陸沿岸に於ける要港として益々發展の途上にある。

石巻市より翠綠滴る森林を縫ふこと四軒餘の渡波町は、海猫の女川町と共に、牡鹿半島の喉喉を扼し、所謂萬石浦の牡蠣は、此の地の名産として海外にまで輸出され、特に

渡波の鹽田は、北日本唯一の貴重なる存在であり、雄勝・荻濱兩港は支倉常長の遺歐壯舉に其の名は朽ちず、突端の鮎川村は、金華山沖の大漁場を控へ、鯨の街として賑ふ。

牡鹿半島の東南端、山雉やまどりの海峽僅に一軒餘を隔て、太平洋中に屹立する一孤島金華山は、海拔四百五十米、周圍二十軒餘、金山悉く花崗岩から成り、山形自ら五峰に分れ、更に六十八嶺、四十八谿を算することが出来る。山形は恰も摺鉢を伏せたるが如く、斧鉞を加へざる原始林は、鬱蒼として晝猶昏く、神鹿群り、野猿馴れ、一步一進、一木の妙、一石の奇、當に塵外の仙境である。東を展望すれば、大平洋渺々として水天髣髴、西は松島灣に浮ぶ島々、點々青螺の如く、遙に陸前陸中の山嶺蜿蜒起伏するなど、其の壯嚴壯大は譬ふるものがない。中腹には黄金山神社がある。金山彦命・金山姫命を祀り、金銀財寶の守護神、漁農施福の神として、千二百年の古き歴史を有し、昔は白衣に手甲脚絆の姿で、所謂金華山詣でが行はれたものである。「すめらぎの御代榮えんとあづまなるみちのく山に黄金花

咲く」金華山へ行くには、鹽釜港から汽船に依るのを順路とするが、石巻市・渡波町・鮎川村の海岸線を突走り、潮流の速い、「山雉の渡場」を漕いで行く方法もある。私は前者を選んだ。もう三年になる。庭球の友人に誘はれ、心ならずも仲間入りをした。朝寝坊の私には、夜明け前の集合がちと辛かつたが、四合壘携行の約束だけは破らなかつた。四四一升六合の酒は、船酔を防禦する爲のものである。

港外へ出ると、外洋らしい動搖が劇しく襲ひ、數十人の船客の顔色が曇り初めた。船内は寂つそり閑として、笑聲一つ洩れない。波濤を蹴つて進航する薄氣味悪い音のみが耳に響く。出漁船が、浮橋の如く峻に映る美觀を、讃える者としてない。私は舳に立つて海氣を思ふ存分吸ひ込み、久し振りに、海洋の雄大美を満喫した。「お海の大將我一人」のシーンである。

三人の相棒は、船客なみに蒼白となり、折角の四合壘が無愛想に轉がつてゐる。「おい呑もう」と、私は椰揄つた。手品師の異名をとるS君が、微かに眼を刮いて、力な

く手を振つた。二回も嘔吐して腹ペコらしい。I君とT君も、S君を介抱してゐるうちに、變になつたのか、二人共ハンカチを口に當てたまゝ仰向いてゐる。私も感染してか、急に胸騒ぎを覺えた。これは堪らぬと、再た舳へ立つた。海面はあくまで深碧である。

小半日の爽快な船路（大部分の船客には不快であつたかも知れぬ）を續け、屈竟な船頭の漕ぐ舳で、波止場まで送られて上陸第一歩。縷の様な小徑が、崖腹を傳ふて通じてゐる。程なくからりとした廣場に出る。左方の鹿山の草叢から、金華山名物の可愛い、牡鹿牝鹿が、ぞろ／＼と我等を出迎える。更に進むと、徑は何時の間にか深い木立の中に入り、突如として黄金山神社の社務所に突當る。

四合壘の口を切つたのは、社務所で一風呂浴びてからである。凹たれてゐた三人も、少々元氣附いたらしい。何時しか、酒豪らしい風格に戻つてしまひ、瞬く間に三本が空になつた。團體の一行が、「表廻り」（社務所から頂上へのコース）の勢揃ひをしてゐるのに、三人は動かうともしな

い。己むなく、私一人が團體の後を追つた。爪先上りの細溪に沿ふこと十五分、遽かに、濃霧が全山を覆ふ。路は漸く峻峻となり、小雨に濡れて登る團體組の列も、次第に亂れて行く。私も酔が循つて、呼吸が忙しくなり、踏張りが思ふ様に利かない。こんな管ではないと、今更自分の倉脚が悲しくなり、幾度か、社務所の殘留連が怨めしくなつた。然し、黙々として進み、黙々として登り、遂に頂上を征服した。

汗びつしよりで社務所に戻ると、肉刺ホトが六つもできてゐた。顔を擧めつゝ階段を踏むと、「少尉殿へこたれましたね」と、船中ペチャンコだつた日君が、觸みたいな眼をして皮肉る。何糞と思つたが、一升追加の上機嫌だ。駄洒落の一つ位出るのも無理なからう。私は、酷く疲勞困憊してゐたので、乗船までに、いくらかでも睡眠を取らうとしたが、相手が悪い。車座になつてまたはじめたが、此の時こそ、浮世の義理も辛いなあと、泌々考へさせられた。

遙々、金華山までのして、一體何を得たか。私はまだい

ゝとしても、三人の行動は、人前で話せるものではない。然し、こうしたことも、尊い思ひ出の一篇であらう。金華山の奇觀は、海岸線を踏破する「裏廻り」をしてこそ、意義がある。「表廻り」は、ほんの序曲に過ぎない。金華山に志す人々の爲に、日歸りの非を暴露して、御参考の一端としたい。

東北地方を指導すべき立場にある宮城縣の道路が、秋田・山形兩縣に先を越された醜態振りには、些か寒心に堪へないが、最近に於ける縣當局の大童な奮闘は、「貫録の挽回遠からず」を偲ばしめる。一つ其の獅子吼を聽いてみよう。

東北に於ける道路狀況は劣悪で、運輸交通の困難なる事に就ては、世既に定評がある程で、其の行路難を耳にする度に、局にある者を如何に憂へしめて來たかは、筆紙に盡し難いものがある。と同時に、如何にして改良維持を圖つて行くかと言ふことは、當局の大なる問題であり、大なる悩みである。同じ東北六縣の内でも、比較的降雪の少ない本縣に在りては、道路維持上の見地より見る時は、一年を通

じ、道路の使用期間も永く、且其の降雪期に入る時と、融雪期に到達したる時との路面損傷程度は實に甚しく、道路行政に關與するものは勿論、一般交通者の悩みは、推察に難くないのである。

近時、時代の進運に伴つて、高速度交通機關の發達には、驚異に値するものがある。而して、高速度交通機關の異常なる發達は、一般民人をして裨益せしむる所が尠くはないのであるが、何分道路の狀況が上記の如く劣悪なるため、其處に反比例の現象が現はれたのである。

陸の玄海灘は諸所に出來、一時的收拾のつかぬ状態にまで、行くのでは無いかと見られたのであるが、幸ひにして、政府に於ては、昭和七年度以降、冷害対策、農村應急、災害復舊の各種事業を認め、同十一年度迄の五箇年間に亘り、縣及市町村を助成せられ、道路改良事業は之を優先的に執行するを得たのと、同十一年度より、特に、東北振興事業が認められ、引續き道路改良事業が實施せられたことに依りて舊態大いに改まり、非難の聲も、呪詛の聲も大いに緩和

するを得た。是は、誠に旱天に慈雨を得たるに等しい恵みであるが、然し、冷靜に之を觀るときは、之は單に、一時的思恵に過ぎずして、悩みは依然として解消して居らぬのである。

尤も當局としては、財政の差支へない範圍に於て、又事情の許す限りに於て、道路本來の使命を完からしめんが爲に、日夜怠つては居らぬが、大勢は再び受難時代に引戻さるゝ懸念が多分にあるのである。否、SOSの警鐘を亂打せねばならぬ時が、刻々に迫りつゝあるの感を、抱かるゝ現状に置かれて居るのである。

時は非常時、國防の見地よりしても、資源開發乃至生産擴充の立前から行つても、此の危機に直面しては、晏如たり得ないことは申すまでもない。即ち、本縣と宮城縣道路保護協會とが協力一致し、客年五月三日を期して國民精神總動員の一項目として道路愛護デーを實施し、公物愛護と、勤勞報國とを強調したのである。又此の機會に、各小學校長を煩はして、第二國民の感想文を蒐録することが出來た。

而して其の結果、道路愛護デー實施に就ては、縣民各位の大なる共鳴を得て、絶大なる實績が與つたのであつる。また、第二國民たる小學校兒童の道路愛護に關する感想文を透して、小國民の抱懐してゐる「道路觀」は、何れもが、「道路は我等のもの」、「我等の道路は、我等の手で愛護して行かねばならぬ」ことを高調して居るのである。

道路愛護デーの實施に依りて、愛護の實が結ばれ、また大小國民の正しい「道路觀」を、把握することが出來て、いに人意を強ふしたばかりでなく、當に來らんとする受難時代を變じて、道路の謳歌時代を招來せしむること、必ずしも難事に非ざるを思はしめたのである。

縣は以上に鑑みて、今後、道路愛護デーを年行事の一として、縣民と固く手を握り、道路謳歌時代を目指して邁進せねばならぬと、切實に感ずるのである。

新春吟懷

田中野狐禪

皇紀二千六百年第一日のカレンダー
風寒く笹の散り葉や初み空
日ぬもすを國旗あをてり禮者稀れに
寝くたれし子の顔目出度初鳥
初富士や箱根足柄雪まだし
賀狀すくなに繪葉書目立つ机上哉
萬歳のマイクに可笑し火燧部屋
忘れし鼠落しよ三ヶ日
爪紅の躑はしくあれ松の内
鏡臺に松過ぎの曇拭ひけり
松過ぎの干割れ目出度や鏡餅
硝子戸に躍る飾りや風花す